

## 令和5年度 第3回川崎市社会教育委員会多摩市民館専門部会摘録

- ・日 時 令和5年12月12日(火) 14時～16時
- ・場 所 多摩市民館 第5会議室
- ・出席委員 高梨部会長、米山副部会長、羽深委員、小澤委員、山本委員、安陪委員、三品委員、小園委員
- ・事務局 柏原館長、星野係長、篠原係長
- ・傍聴者 1名

### 1 開 会 (星野係長)

### 2 部会長挨拶

### 3 館長挨拶

### 4 令和5年度第2回会議録について

**資料1**に基づき星野係長から説明し承認された。特に質疑はなし。

### 5 議 題

#### (1) 令和5年度施設管理等について (報告)

**資料2**に基づき星野係長から説明。特に質疑はなし。

#### (2) 令和5年度多摩市民館社会教育振興事業について (報告)

**資料3**に基づき篠原係長から説明。

(小園委員)

市民自主企画事業に採択された TAMA VOICES の「オトナリの音」事業は良い事業と思ったが、自分は参加できなかった。活動の様子はホームページなどで分かるか。

(篠原係長)

12月10日に行われた事業を動画撮影している。その日は、それまで実施してきた4回のワークショップの報告も行っており、その様子も含め撮影した動画が編集され、今後団体のホームページにアップされるかと思う。また、2月10日の生涯学習交流集会でも何らかの形で報告させていただく予定である。

(高梨部会長)

市民自主学級の「川崎市多摩区の副読本を作る」事業が取り下げになったとのことだが、提案者と稲田郷土史会が個人的に作成することになったということか。

(篠原係長)

10月に取り下げの申請が出された段階では、稲田郷土史会の活動の一環という形で研究を深めていくということであった。それまで、企画運営委員会には同会の会長ほか2名の方が毎回オブザーバーとして参加され、同会も一緒になり、どういう講座にしていくか、副読本をどういったものにするかという話をしていたが、その中で事業の今後の進め方についても提案者と同会で話がなされ、今回の形となったもの

である。

(高梨部会長)

企画運営委員会のメンバーは解散となったのか。

(篠原係長)

そのとおりである。企画運営委員会には経過についても報告させていただいている。

### (3) 今季のテーマについて

資料4に基づき篠原係長から説明。

(米山副部会長)

今期のテーマに係るモデル事業の高齢者セミナーについて、自分は長沢自治会の会長をしているが、多摩市民館が出張して講座を開いてくれるということで、本当にありがたく、地域の活性化につながった。1回目は、ながさわフェスタという地元のイベントと一緒に開催したが、2・3回目の講座は単体で実施したところ参加者数の面で反省点もあった。

昨日も地域支援課の保健師から、2月か3月に長沢自治会館での講座実施の相談があったが、色々な団体に声掛けをしないと集客が厳しい。声掛けをして団体として参加してもらえれば参加者も多くなる。団体の誰かをターゲットに声掛けをすると良いと思う。

(小澤委員)

素敵な事業だと思う。参加者数が少なかったとの話だが、高齢者にとっては1人で参加しても2人で参加しても、地域の方が互いに色々な話ができたとと思う。当日は専門の医者は参加したのか。

(篠原係長)

計画づくりの中では、地域みまもり支援センターからは、こうした講座は医者が主になって開いているという話は聞いていたが、スケジュール調整の面で課題があったことと、他と同じような講座となってしまうことなどを考慮し、医者に参加いただく形は取らなかった。

(小澤委員)

医者が参加していると、医者の話を聞きに行こうという人もいる。今回は参加者数が少なくても、地元の方は色々と話をしていると思うので、高齢者のつながりは広がっていくと思う。

(三品委員)

報告書のまとめ方について、資料16頁「I はじめに」の中で、課題と課題を解決するための手段が一緒くたに書かれているように思う。今期のテーマは、市民館が区内に1か所であり必ずしもアクセスしやすい人ばかりではなく利用しやすい状態になってないということが課題であって、それをアクセスしやすくするために社会教育を充実・強化していきたい、その手段として、市民館が地域に出向いていく、ということだと思うので、タイトルの内容に合わせて、それを書いた方が良い。

もう1点、今回のモデル事業では、第1回の講座で高齢者のほか家族連れの参加もあったということだが、資料22頁「評価・反省点」の中では、こうした成果があったことや、参加者からはこういう声があったということなどを具体的に記載した方が良い。全国で見れば似た事業を行っているところもあると思うので、そうした事業と比較して良かった点などとも言えるようであれば評価として盛り込むと良いのではないか。

(柏原館長)

資料16頁「I はじめに」については、「前期の報告書では」という、前期のテーマを踏襲したような書き出し、内容となっている。導入部分なので分かりやすい内容となるよう表現を検討したい。

(三品委員)

前期は前期、今期は今期で重複する内容があったとしても、何がやりたいのか、という点をしっかり記載した方が良い。

(柏原館長)

資料22頁の「評価・反省点」に関する御意見については、モデル事業の実施結果のところで、参加者からの感想や連携した団体からの御意見などをもっと具体的に盛り込んでいきたいと思う。ただ、他の自治体・市民館との比較ということになると、きちんとした基準による比較というのは難しい面がある。

(三品委員)

全面的に評価をしようとする時間がかかり大変である。部分的にでも、他でやっていないことを今回のモデル事業でやった、というような点があれば盛り込んではどうかと思う。

(小園委員)

資料22頁の「評価・反省点」に、「対象者が参加したいと思う内容とのミスマッチがあったのではないか」とあるが、どういう点でそのように判断したのか。アンケートをとったのか。

(篠原係長)

アンケートはとっているが、第3回目の講座に参加した6名のアンケートなので幅広くは得られなかった。結果論ではあるが、第1回目は多くの参加があったので任意でもアンケートを取り、市民館がこのように地域に出向いていくことに対する意見を聞けると良かった。

ミスマッチと記載しているのは、今回23名の申込者に対して、チラシを配って各回の講座の内容をしっかりと広報していた中で多くの方の参加が得られなかったということは、やはり自分にとって足を運んでまで参加したい内容ではなかったということが考えられるので、記載したものである。また、会場が市民館の場合、日頃から何らかの講座が行われていることが認知されているが、自治会館ではあまりこのような講座が行われていないので、自然と足が向かないということもあったのではないかと思う。

(小澤委員)

チラシは多摩市民館でも配布していたのか。

(篠原係長)

多摩市民館でも配布していた。他の講座で実施している広報はすべて行い、それに加えて地元の長沼まちづくり協議会の協力を得て、新聞折り込みで配布いただいたり、近隣の薬局に掲示いただいたりもした。

先程の米山副部長のお話にもあったが、やはり地域の方々の中での声掛けというのが、こういった講座の開催に当たっては大事だということは改めて感じたので、引き続き広報に努めていきたい。

(安倍委員)

報告書案はよく問題点のポイントをついていると思う。今回モデル実施した講座は全3回で、1回目は自治会等とタグを組み人が集まる仕組みの中で開催し、2・3回目は自治会の一施設を借用し、テーマを提示し参加してもらうという、違う形式で実施している。必要な物品や協力団体も異なっており、それを一つの講座としてまとめて実施するのは難しいと思う。出前で実施する講座はどのようなスタンスでどういう団体と実施するか、同じ団体のメンバーなのか、専門がそれぞれ異なるメンバーなのか、それによ

ては一概に評価できなくなってしまう。報告書の中では、出前で実施する講座のスタッフや集客方法がどうあるべきか、今回のモデル実施を通じて何が足りなかったのか、その点を打ち出していくと内容がより現実味を帯びるのではないかと。講座で扱うテーマは大切なことから、より身近に参加してもらう方法を導き出していくことが必要だと思う。

(高梨部会長)

22頁の「2 来年度及び今後の方向性について」の中で、そういった課題や方向性を示していくことが必要と思う。

(三品委員)

先程、市民自主学級「川崎市多摩区の副読本を作る」が取り下げられたことについて質問があったが、最初に事業を提案された際には、こういう思いを持ってこういうことをやりたいというものがあったと思う。当初の提案者の思いが実現できるような方向になっているのか。提案者が当初やりたかった内容が変わってしまうことにはならないのか。

(篠原係長)

最終的には副読本を作ることが目標なので、学級の開催はなくなったが、ある意味更にスピードアップして進んでいくと思う。

(三品委員)

例えば、学級を開いて様々な人に参加してもらって作りたい、という思いがあったのにそれが変わってしまった、無くなってしまったということにはならないのか。

(篠原係長)

今回の提案は、一緒に活動する仲間づくりが最初のステップであったので、稲田郷土史会の方に出会い、仲間ができたという点では良かったと思う。

(高梨部会長)

報告書の中で、3点気になる点がある。

はじめに、22頁の「2 来年度及び今後の方向性について」の内容を考えていく中で、アウトリーチを実践していくための課題なのか、高齢者セミナーの実践に当たっての課題なのか、その点を整理して記載する必要がある。今回のテーマはあくまでアウトリーチをどのように実践していくかということなので、それをメインで主張していくことが必要である。

2点目は、来場者のアンケート数が少ないということだったが、学習の評価をする上では数だけでなく質もあると思うので、数は少なくとも内容に反映していくべきである。

3点目、23頁の部会長による「IV まとめ」を記載していくに当たり確認したいのだが、同頁の中に、今後他の地区で出前講座を開催していくことが望ましいといった趣旨の記載があるが、これは市民館としての今後の教育活動の方向性のことなのか、研究テーマに対しての方向性のことなのか、どちらのことを説明しているのか確認したい。

(柏原館長)

「市民館・図書館の管理運営の考え方」におけるこれまでの検討の中では、川崎市全体の市民館のあり方として、地域全体に向けてどのように地域づくり、つながりづくりをしていくかということを常々課題としてきており、市民館の事業において区域全体を見据えた事業展開ということは考えていかななくてはならないと考えているところである。

(高梨部会長)

今回のテーマの研究をした結果、残された課題について今後も取り組んでいくということか。

(柏原館長)

それを市民館としてやっていく。高齢者を対象とした講座とはならないかもしれないが、地域特性を踏まえた事業展開、アウトリーチを何らかの形で行っていく。ただ、それを次期の専門部会のテーマとするかどうかは、次期の部会の中で決めていくこととなる。

(篠原係長)

今後の進め方について、本日いただいた御意見を反映して報告書をまとめ、次回の部会の前に委員の皆様にご確認いただきたいと考えている。次回、最後の専門部会では事前確認でいただいた御意見を集約して取りまとめた報告書を提示するので、そこで最終的な確認をいただきたい。

## 6 その他

資料5に基づき星野係長から次回専門部会の日程（2月18日（日））を説明した。また、同日に開催する、多摩市民館市民自主学級・市民自主企画事業企画提案会の流れを篠原係長から説明した。

## 7 閉 会（米山副部会長）